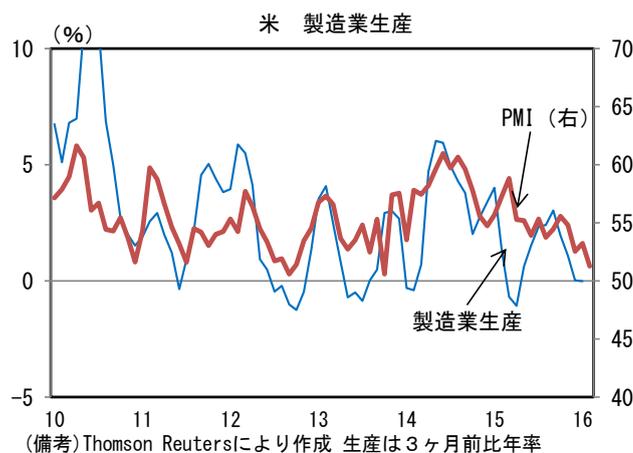
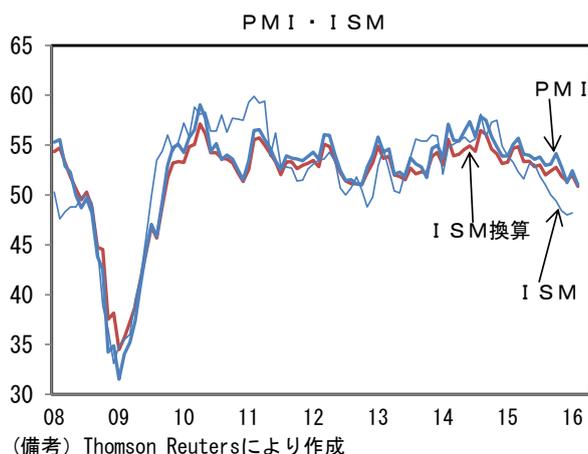


### 【海外経済指標他】～製造業セクター：状況は厳しい～

- ・ 2月米PMI (Markit) は51.0と1月から横ばいを見込んでいた市場予想 (52.4) を下回った。生産 (53.2→51.3)、新規受注 (53.6→51.7)、雇用 (52.8→51.5) が軟化し、購買数量指数 (49.6→49.7) は横ばい。筆者がISMに近づけたベースでは50.9と1.1pt低下、2009年9月以来の水準に落ち込んだ。2月ISMのリスクは下向きと判断される。実際の製造業生産はしばらく弱い状態から抜け出せないだろう。



- ・ 2月ユーロ圏製造業PMIは51.0と1月から1.3pt軟化。生産 (53.4→51.9)、新規受注 (53.0→51.6)、雇用 (52.1→50.9)、購買数量指数 (48.6→47.8) が揃って軟化した。国別ではドイツ (52.3→50.2) が軟化した一方、フランス (50.0→50.3) が改善。ここから逆算すると、その他ユーロ圏は軟化したと見られる。日米英と比較してこれまで持ち堪えてきたユーロ圏経済は、海外経済の長引く減速とユーロ安効果剥落を背景にモメンタムが鈍化している。
- ・ 2月ユーロ圏総合PMIは52.7へと約1年ぶりの水準に低下した。実質GDP成長率は4Q (前期比+0.3%) から鈍化する公算が大きく、2月ユーロ圏消費者信頼感指数など各種先行指標の軟化傾向を踏まえると先行きのリスクも下向きだ。

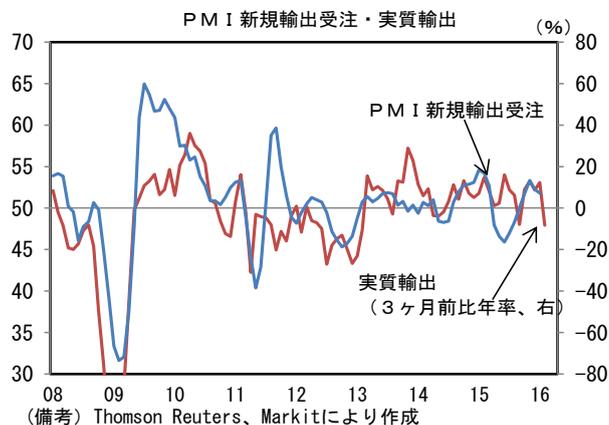
### 【海外株式市場・外国為替相場・債券市場】

- ・ 前日の米国株は反発。原油価格上昇を横目にエネルギー株が上昇。IEAの中期石油市場リポートで、米国産シェールオイルの生産量が減少するとの見通しが示され原油を巡る需給懸念が緩和。欧州株も大幅高。WTI原油は31.48ドル (+1.84ドル) で引け。
- ・ 前日のG10通貨はAUD、NZD、CADが反発した一方、GBPの下落主導で欧州通貨 (EUR、CHF、DKK、SEK) が軟調。GBPの下落はロンドン市長がユーロ離脱を支持したことが背景。世界的な株高・原油高というリスクオンの流れにもかかわらずJPY売りは限定的でUSD/JPYは113近傍での推移。
- ・ 前日の米10年金利は1.752% (+0.7bp) で引け。株高・原油高にもかかわらず、欧州債ラリーに引っ張られる格好で売り買い交錯。欧州債市場は堅調地合。独10年金利が0.176% (▲2.6bp) で引けたほか、イタリア (1.519%、▲4.5bp)、スペイン (1.654%、▲5.1bp) が金利低下。ポルトガル金利 (3.450%、+

1.2bp) は上昇したものの、GIPS金利の対独スプレッドはタイトニングした。3月E C B理事会における「マイナス金利拡大+ $\alpha$ 」の追加緩和が織り込まれつつあるようだ。

### 【国内株式市場・経済指標】

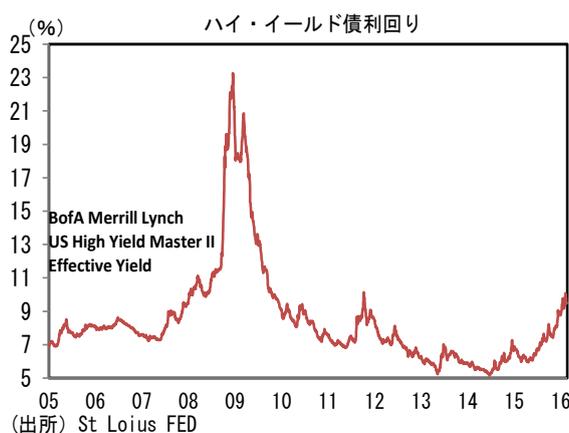
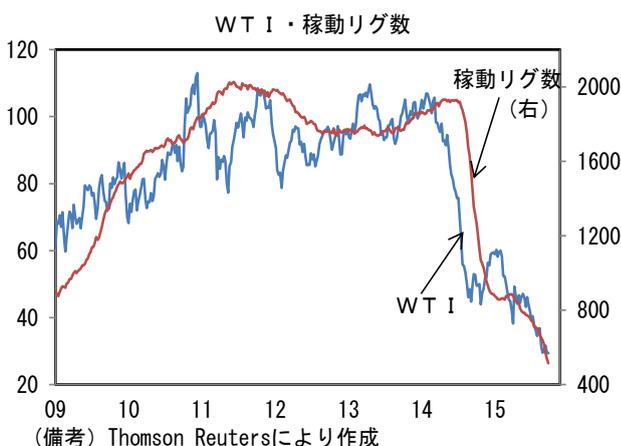
- ・日本株は欧米株高に追随して高寄り後、上昇幅縮小。一時マイナス圏に沈む場面もあった。
- ・昨日発表の2月製造業PMI (Markit)は50.2と8ヶ月ぶり低水準に落ち込んだ。生産 (53.0→50.6) 、新規受注 (52.8→49.9) が大きく落ち込み、雇用 (52.1→50.5) も弱かった。指数構成項目ではないが、気になるのは新規輸出受注 (53.1→47.9) の急激な落ち込み。中国の春節が季節パターンを歪めた可能性はあるものの、1・2月平均は50.5と10-12月平均を2ptも下回っている。生産、輸出ともにハードデータのリスクは下向きだ。



### 【注目点】

- ・筆者はグローバル投資家のリスク許容度改善のタイミングを推し量るという観点からISM製造業指数に注目している。しかしながら、これまでに揃った2月の (ISM製造業指数の先行指標となりうる) サーベイを見る限りISM製造業指数の好転は期待しにくく、寧ろ1月の小幅反発を帳消しにするリスクが高まっている。ISM製造業指数の予測精度が高いフィリー指数、Markit PMIをISM換算した指数が2月に一段と悪化しているほか、原油価格の停滞とそれを映じた稼動リグ数の減少および新設投資の凍結が製造業セクターを更に圧迫している可能性があるだろう。また、原油生産の盛んなテキサス州を含むダラス連銀製造業指数は1月の▲34.6から一段と悪化する可能性があるなど、エネルギーセクターと製造業の共倒れリスクが惹起され易い状況にある。

原油価格反発には米国内の生産調整が必要と考えられるが、それは米製造業、エネルギーセクターに痛みを伴う調整を強いる。当面は原油価格反発へ向けて避けて通ることのできない上記2セクターの苦境とハイ・イールド債市場の波乱が意識されそう。しばらくはボラタイルな展開が予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

<主要株価指数>

	終値	前日比
日経平均※	16126.44	15.39
N Y ダウ	16,620.66	228.67
D A X (独)	9,573.59	185.54
FTSE100 (英)	6,037.73	87.50
CAC40(仏)	4,298.70	75.66

<外国為替>※

USD/JPY	112.16	-0.76
EUR/USD	1.1041	0.00

<長期金利>※

日本	-0.011 %	-0.006 %
米国	1.752 %	0.007 %
英国	1.394 %	-0.020 %
ドイツ	0.176 %	-0.026 %
フランス	0.524 %	-0.041 %
イタリア	1.519 %	-0.045 %
スペイン	1.654 %	-0.051 %

<商品>

N Y 原油	31.48 <sup>ドル</sup>	1.84 <sup>ドル</sup>
N Y 金	1209.50 <sup>ドル</sup>	-20.90 <sup>ドル</sup>

※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。

(出所) Bloomberg

